

第8回特定外来生物等分類群専門家グループ会合に関する公開質問状

2023年1月18日

環境大臣 西村 明宏様

公益財団法人どうぶつ基金
理事長 佐上邦久

1, 第8回特定外来生物等分類群専門家グループ会合（哺乳類・鳥類）において出席者は下記（引用を参照）の発言をしています。また石田議員の（猫の射殺をすすめて、射殺の事実隠ぺいを環境省に促すような発言）に対して他の出席者は誰一人注意すらしていません。村上座長においては石田発言を肯定しています。石田委員及び村上座長の肯定的な発言について、環境省としての見解と感想を教えてください。また本発言を環境省として肯定的にとらえているか否かをお聞かせください。

2, 特定外来生物等分類群専門家グループは「希少種保護のために猫を殺したという実績を一つ作りこれを正当化したい。そしてこの実績を既成事実として全国展開したい」という極めて偏った考え方の委員だけで組織され、環境省の方向性や今後の方針が決められています。今後、会議には、幅広く他の分野の有識者や報道関係者、動物愛護団体など違った意見を持つ専門家を含めるべきだと思います。今後のメンバーの再編成について考えを教えてください。

3, 同会合において 下記の発言（引用）について、【立田外来生物対策室長補佐】 「それは、あります。」 というのは具体的にどの地域を想定していたのかを教えてください。

以下引用

【石田委員】 質問したいのですが、日本全国で、例えば環境省の認識で、本当にノネコの問題がまずいと思っていらっしゃるところはあるのですか。

【立田外来生物対策室長補佐】 それは、あります。

引用ここまで

4, 同会合における石田委員の質問「奄美では、1回とったので、殺処分しようとしたら、本省からストップがかかった」（引用参照）について事実関係を明確に教えてください。

5, 回答を2023年1月27日までに下記あてEメールにていただきますようお願いいたします。

Email : contact@doubutukikin.or.jp

公益財団法人どうぶつ基金

理事長 佐上邦久（さがみくにひさ）

以下引用

【石田委員】 殺処分に関しては了解をとっているんですか。奄美では、1回とったので、殺処分しようとしたら、本省からストップがかかったとかいううわさもあるんですけども、違うんですか。

【曾宮室長】 要は、地域の中で現実的にどう対応していくのかというのはまた別の問題だと。

【石田委員】 すみません、うわさ程度の話なので。

引用ここまで

=====

以下議事録より引用

【石田委員】 要らないネコは海に捨てていたのですけれども、奄美の人みんなそうらしい

【石田委員】 端的に言えば、1人ボランティアで狩猟してくださる方がいれば何の問題もない。現地でどんどん撃てばいい。

【村上座長】 それが簡単にできればええけど、そこが難しいんちゃう？

【石田委員】 いや、難しくありません。だって、批判するような人は、山の中へ入ってきて、そんなことを見ていないですから。やっていますよと宣伝して連れてきてしまうから、それを処理できなくて、その後、ちゃんと責任をとれないのに、とってくるからいけないんですね。誰か1人撃つ人がいれば、すぐ解決するような問題なので。

【村上座長】 その人が集中攻撃を受けるのではないですか。

【石田委員】 その人は黙っていればいいので。田舎へ入っていけば密猟なんてたくさんあるんですよ。

引用ここまで

と、射殺をすすめて、射殺の事実隠ぺいを環境省に促すような発言。など、石田 健 委員【東京大学准教授）の発言が際立って散見されます。このような発言を自慢げにされる人が国税を使い東京大学准教授（当時）として教鞭をとっているということにも驚きを隠せません。石田健委員はじめ、下記の出席者らが中心となって、殺処分を前提とした奄美のネコ3000頭駆除計画や沖縄ヤンバル、南大東島の猫駆除計画を策定しています。

第8回特定外来生物等分類群専門家グループ会合（哺乳類・鳥類）

1. 日時 平成29年2月3日（金）14:00～16:10

2. 場所 一般財団法人 自然環境研究センター 7階 会議室

3. 出席者

（座長） 村上 興正

（委員） 池田 透 石井 信夫

石田 健 川上 和人

成島 悦雄 西海 功

羽山 伸一

（環境省） 曾宮自然環境局野生生物課外来生物対策室長

立田外来生物対策室長補佐

若松外来生物対策係長

（農林水産省） 高濱大臣官房政策課環境政策室長補佐

久保農村振興局農村環境課鳥獣対策室課長補佐